

様式1

令和3年度学校評価報告書
渋谷区立上原中学校

令和3年度 学校評価報告書

令和4年2月10日
渋谷区立上原中学校

(1) シブヤモデルの実現 (未来の学校に向けた学びの改革)

【ア】 自己評価

重点目標		① 日々の授業改善 ② ICT の日常化 ③ シブヤ科の推進		
評価指標		取組内容	評価	今後の課題と方針
①	全国学力・学習状況調査の「授業の内容はよくわかりますか」という回答が全国平均を上回る。	ドリル学習等を取り入れて基礎基本の徹底を図る。友達との協働学習を取り入れた授業の工夫を行う。	B	「授業がよくわかる」と肯定的な回答は、国語 81.1% (国平均 80.1%) 数学 80.0% (国平均 74.6%) であった。今後も生徒の意欲関心の高まる教材の工夫を行う。
②	全国学力・学習状況調査の「授業でコンピュータを使用しましたか」という回答が前年度を上回る。	区教委指定デジタル教科書活用研究を推進する。研究推進担当が日頃の ICT 活用例を収集・発信していく。	A	「ほぼ毎日使用」22.1% (令和元年度 9.1%) 「週 1 回以上」84.2% (令和元年度 58.5%) であった。今後も ICT 使用を日常化するよう推進を図る。
③	渋谷区を教材とした教育活動を計画的に実施する。	各学年で総合的な学習の時間でシブヤ科について計画を立てる。他校の実践を研究する。	B	各学年でシブヤ科をおおむね実施できた。学校閉鎖等で計画変更し、渋谷区めぐり等を行った。

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

【イ】 学校関係者評価

評価	学校関係者委員会の見解について
A	(1) 「授業がよくわかる」という回答が、全国平均を上回っているのは良いことだ。 (2) 渋谷区は、タブレットや ICT を先進的に導入しているので、今後とも ICT の活用に取り組んで欲しい。 (3) 「シブヤ科」ということで、地域のことを学習するのは地域としても嬉しい限りである。生徒が、この渋谷に愛着を持ってくれるといいと思う。ぜひ、地域の行事等にも中学生に参加して欲しい。

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

(2) 安心・安全に挑戦できる環境について

【ア】 自己評価

重点目標		① 人権教育の充実 ② いじめ防止の徹底 ③ 特別支援教育の推進 ④ コロナウイルス対策の徹底			
評価指標		取組内容	評価	今後の課題と方針	
①	全国学力・学習状況調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」という回答が全国平均を上回る。	あらゆる教育活動で偏見や差別を許さない人権教育を推進する。校内研修で教員の人権感覚を磨く。	B	「学校に行くのは楽しい」と肯定的な回答は81.0%(国平均 81.1%)であった。今後も一人一人の生徒を大切にされた教育の充実を図る。	
②	いじめ調査を年3回以上実施し、早期発見・早期対応に努める。	いじめ防止学校基本方針を再点検する。いじめを組織的に対応する。	A	いじめ調査を年3回実施した。いくつかの事案に組織的に早期対応ができた。	
③	特別支援校内委員会を月1回開催し、個別の支援方法について協議する。	巡回相談の情報を共有し、専門家とともに支援策を策定・実施する。	B	校内委員会を月1回実施した。支援策の実施については、今後も継続していく。	
④	ガイドラインに沿った教育活動を実施する。	マスク着用、3密回避、手洗い等感染症対策の徹底を行う。	A	ガイドラインの徹底を図ることができた。	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

【イ】 学校関係者評価

評価	学校関係者委員会の見解について
A	(1) いじめはあってはならないことなので、いじめの防止には是非積極的に取り組んでいただきたい。いじめ調査やアンケートなど、手厚く取り組んでもらっているようではあるが、気を緩めずにやってほしい。 (2) 上原中学校には、明星学級も併設されているので、特別支援教育には歴史的に取り組んできたことと思う。最近は、通常学級に特別な支援が必要な生徒も在籍していると聞いているので、大変だとは思いますが、きめ細かい指導をお願いします。

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

(3) 働き方改革について

【ア】 自己評価

重点目標		① 出退勤システムの活用 ② ペーパーレス化の推進		
評価指標		取組内容	評価	今後の課題と方針
①	教員が毎日、出退勤システムを活用する。	自分の時間外勤務等を把握させ、健康管理を徹底させる。	B	毎日出退勤システムを活用することができた。時間外勤務の抑制に少しはつながっている。
②	職員会資料等は PC に添付し、ペーパーの資料をなくす。	会議資料は PC に添付することの徹底を図る。	B	ほとんどの会議の資料は PC でペーパーレスになった。更なるペーパーレス化を推進する。

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

【イ】 学校関係者評価

評価	学校関係者委員会の見解について
B	(1) 見たところ、先生たちは毎日遅くまで学校に残っているし、土日も部活等で出勤しているようであり、とても働き方改革が進んでいるとは思えない。 (2) しかしながら、ICT が進んだり、部活動改革などの取組もあり、少しずつ先生たちの働き方も変わっているであろう。先生が身体を壊しては元も子もないので、健康には十分留意して仕事をしていただきたい。

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

【4】 家庭・地域との連携について【ア】 自己評価

重点目標		① コミュニティ・スクールの活性化 ② ホームページの充実 ③ Home&School の活用		
評価指標		取組内容	評価	今後の課題と方針
①	学校運営協議会を年 5 回実施し、学校情報の提供と意見聴取を行う。	学校の現状を知らせ、学校運営への意見を積極的に聞き取る。	C	緊急事態宣言発令等のため年 3 回の実施となった。次年度は地域学校協働本部を設置し、地域との連携をさらに強化していく。
②	ホームページに週 1 回以上学校情報・学年だより等を掲載する。	学校情報を家庭・地域にホームページを通じ、積極的に発信する。	A	週 1 回以上学年だより等をホームページに掲載した。
③	Home&School の使用方法を家庭に周知し、活用を促す。	遅刻・欠席の連絡、アンケート調査等使用方法を家庭に周知する。	A	遅刻・欠席の連絡、アンケート調査等での活用が日常となった。

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

【イ】 学校関係者評価

評価	学校関係者委員会の見解について
A	(1) 今年度、新型コロナのために学校運営協議会が 3 回しか開けなかったのは、仕方がない。来年度は地域学校協働本部も設置されると聞いているので、楽しみである。 (2) ホームページは逐次更新されており、学校・学年・学級通信も定期的に発行されていると思われる。

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

(5) 特色ある教育活動について

【ア】 自己評価

重点目標		① 教科教室型システムの活用 ② 学習者用デジタル教科書モデル実施		
評価指標		取組内容	評価	今後の課題と方針
①	全国学力・学習状況調査の「勉強は好きですか」という回答が全国平均を上回る。	教員の教科部会の充実を図る。教科ごとの掲示物を工夫する。	A	「勉強が好き」と肯定的な回答は、国語 62.1% (国平均 60.8%) 数学 70.5% (国平均 59.1%) であった。
②	デジタル教科書を使用した研究授業を 3 回以上実施する。	社会・数学でデジタル教科書を使用した研究授業を実施する。区教委と協力し報告書にまとめる。	A	デジタル教科書を使用した研究授業を 5 回実施した。その成果を報告書としてまとめた。

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

【イ】 学校関係者評価

評価	学校関係者委員会の見解について
A	(1) 上原中学校は、立派な校舎と設備、そして教科教室型システムが特色である。今後とも、この特色 (=強味) を生かして、充実した教育活動に取り組んでいただきたい。 (2) 渋谷区では ICT が進んでおり、教科書もデジタル化したということである。デジタル教科書がどのくらい役に立つものなのかはわからないが、今後とも研究を進めていてもらいたい。

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成